

CSR報告書2022



日本精蠟株式会社

2022年 日本精蠟株式会社徳山工場 CSR報告書

Ħ	1 /17	₩	ار ار
Ħ	X	X	X

第1章 環境報告の基礎情報

編集方針	2
企業理念体系	3~4

第2章 環境報告の記載事項

経営責任者のコミットメント	トップメッセージ	5
コーポレート・ガバナンス		6
コンプライアンス&リスクマネジメント		7
ステークホルダーエンゲージメント		8~12
経営責任者のコミットメント		13~14
ビジネスモデル		15~19
バリューチェーンマネジメント		20
長期ビジョン		21~22
長期ビジョン(戦略)		23~25
重要な環境課題の特定方法		26~27
参考資料 主な環境課題とその実績評価指標 大気汚染、水質汚濁、PRTR、産業廃棄物		28~30



編集方針

当社は、環境への取り組み、社会的活動の取り組みをより多くのステークホルダーの皆様にご理解いただくために2008年から「環境報告書」を発行してきました。2013年度からは、CSR全体の概念を包含し「CSR報告書」としております。

この報告書を通じて、ステークホルダーの皆様とコミュニケーションを深め、CSR活動の推進に向けて今後も積極的に取り組んでいきます。

報告に当たっての基本要件

■ 報告対象範囲

日本精蠟株式会社

■ 報告対象期間

原則として2021年1月~2021年12月 (一部対象期間外の活動も含みます)

- 大気汚染、水質汚濁、PRTR、産業廃棄物、マテリアル収支 環境省「環境報告ガイドライン(2018年度版)」
- お問い合わせ先

日本精蠟株式会社 http://www.seiro.co.jp

技術部環境保安課 <u>TEL:0834-84-0323</u> FAX: 0834-84-0860

本報告書に関するご意見・ご質問は上記までお願い致します。

企業理念

時間、環境を大切にし、仕事を楽しみ、やりがいを感じ、一人一人が輝ける会社 歴史の積み重ねを誇りとし、人財を育み、未来に繋ぎ、お客様に信頼され続ける会社 現場力の強い、本質のぶれない会社

目標

専業メーカーとして業界世界一と信頼され、必要とされる会社となる

行動指針(3C)

01 Change

変わる

02

Conviction

信念

03

Challenge

挑戦

沿革

1929(昭和4)年

南満州鉄道の 子会社として設立

1951 (昭和26) 年

在外資産の管理を解かれ 資本金620万円をもって新会社設立

1945 (昭和20) 年

終戦により在外資産のため GHQの管理下に置かれ旧会社閉鎖

1963(昭和38)年

東京証券取引所 市場第2部に上場

沿革

2021 (令和3) 年

開発研究センターを徳山工場へ統合 研究・試験棟完成



2014 (平成26) 年

好現地法人

Nippon Seiro(Thailand)Co.,Ltdを設立

2008 (平成20) 年

つくば事業所設置 食品添加物製造設備新設 テクノワックス株式会社を設立

1984(昭和59)年

減圧蒸留装置完成

1971 (昭和46) 年

資本金11億2,000万円に増資

1976 (昭和51) 年

化成品製造装置完成

【現在】

中期経営計画 (2021年-2024年)

2017 (平成29) 年

分子蒸留装置增設完工 (庄の浦工場)

2011(平成23)年

開発研究センターつくば分室開設

2000(平成12)年

1977(昭和52)年

顆粒成型装置完成

分子蒸留装置新設(打上工場)

溶剤脱油装置完成

1972(昭和47)年

トップメッセージ

日本精蝋は、2029年に創業100周年を迎えます。その生い立ちは戦前、戦略物資であるワックスと燃料油の国産化政策の下に設立された国策会社でした。戦後1951年、民間企業として生まれ変わってからは、ひたすらお客様のご要望に耳を傾け、ワックスの用途開拓と品質向上に研鑽を積んでまいりました。いまやワックスは、幅広い産業分野、生活消費財分野に無くてはならない重要な素材なのです。

当社は、わが国唯一のワックス専業メーカーです。時代と共に変化し多様化するお客様のニーズにお応えすべく、創業の地山口県徳山を皮切りに、茨城県つくば、東南アジアのタイへとワックス製造拠点を拡張してまいりました。現在"NIPPON SEIRO"製品は世界約30ヵ国のワックスユーザーにその品質を認められ、お使いいただいております。

当社の使命は、これからもお客様の課題を解決するワックス製品を開発し、永く安定的にご提供することです。そして、ワックス事業を通じて当社グループで働く全ての従業員に働き甲斐と心身の健康を提供することです。

これからもワックス一筋、徳山から世界へ"NIPPON SEIRO"プランドを発信してゆきます。 応援して下さい、どうぞ宜しくお願い致します。



コーポレート・ガバナンスに関する基本的考え方

激変する経営環境と社会的要請に迅速かつ的確に対応できる意思決定、透明性の高い経営、法令並びに企業倫理の遵守に努めて企業価値を高め、株主、顧客、取引先、従業員、地域社会等のステークホルダーに評価され信頼を得ることをコーポレート・ガパナンスの基本としております。

会社機関の基本説明

【会社の機関の基本説明】

(1) 取締役会・経営執行会議

経営の意思決定・監督機能と業務執行機能の分離および権限と責任の明確化を図るために執行 役員制度を導入し、取締役会は経営戦略・方針の決定および執行業務の監督等高度な経営判断に 専念し、経営執行会議は会社運営に関する重要な事項について、審議・決定するとともに業務執 行の全般的統制を行っております。

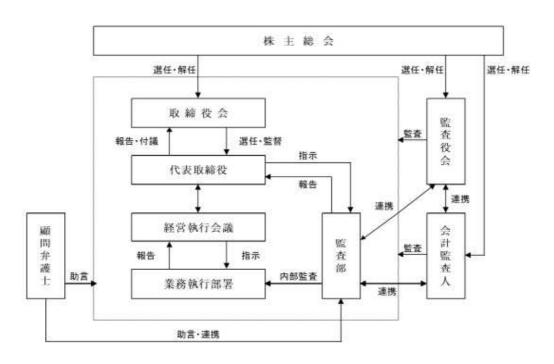
(2) 監査役会

監査役会は社内監査役1名、社外監査役2名で構成しており、適宜必要に応じて開催しております。各監査役は監査役会が定めた監査方針、業務分担等に従い、取締役会、経営執行会議および重要会議への出席、重要書類の閲覧および業務執行部署への往査により、経営の透明性・客観性・適法性を監査するとともに必要に応じて意見を述べております。

(3) 顧問弁護士

顧問弁護士とは重要な法的課題およびコンプライアンスにかかわる事項について、必要に応じてアドパイスを受ける等適法性の確保に留意しております。

【コーポレート・ガバナンス体制 模式図】



コンプライアンス&リスクマネジメント

当社は、法令遵守だけでなく、社内規則、企業倫理および社会規範の遵守に向け、コンプ ライアンス優先の企業風土を目指しています。

コンプライアンスに関する基本的考え方

- ① 企業の社会的責任と公共的使命を常に認識し、健全かつ適切な業務運営を通じて、社会からの信頼の維持向上に努めます。
- ② 経営情報の公正かつ正確な開示をはじめとして広く社会とのコミュニケーションを図り、社会に評価される透明な経営に努めます。
- ③ あらゆる法令やルールを遵守し、社会規範にもとることのない、誠実かつ公正な企業活動に邁進します。
- ④ 国際社会に通用する高い倫理観を備えた良き企業人としての使命感を持ち、経済・社会の発展に 貢献します。
- ⑤ 当社の使命は、これからもお客様の課題を解決するワックス製品を開発し、永く安定的にご提供することです。そして、ワックス事業を通じて当社グループで働く全ての従業員に働き甲斐と心身の健康

内部通報制度

コンプ^{*} ライアンスに関する問題の早期発見、解決のための「社内通報規程」を定めており、ハラスメント防止や 社内通報における窓口を設置する等、コンフ^{*} ライアンス経営の強化に努めています。

情報管理に向けた取り組み

営業上の機密情報や個人情報についての厳格な保全・管理が社会的に求められている中、当社は、「情報システム管理運営規程」を制定し、情報管理体制を構築しています。今後も事業環境の変化に迅速かつ的確に対応するとともに情報管理のさらなる徹底に努めています。

リスクマネジメント

法令遵守の実践を経営の重要課題と位置づけ、法令遵守はもとより企業倫理に則った行動の推進を 図るために、適時実施の社員教育や安全衛生中央委員会等各種委員会でその徹底に努めています。

また、四半期毎に各部門のリスク管理および法令遵守の実施状況について継続的に点検を行い、その結果を経営執行会議および取締役会に報告するとともに各部署を通じて全社員への周知徹底を図る等その実践に努めています。

さらに、監査部署を中心に企業統治の根幹である内部統制システムを十分に機能させ、監査役会、会計 監査人および顧問弁護士と連携のもと、法令遵守・リスク管理の一層の徹底を図るための諸策の推進や 内部監査の充実に努めています。

ステークホルダーエンゲージメント

お客様とともに

当社は、お客様のご意見・ご要望に常に真摯に耳を傾けながら、お客様にご満足いただくため、開発設計の段階から安全・安心で高品質な製品づくりを目指し、日夜たゆまぬ努力を続けています。

品質保証への取り組み

当社は、お客様に安全・安心で満足していただける製品を一貫して提供し続けるため、ISO 9001認証に基づく品質マネジメントシステムを確立し、開発・製造・販売・技術・サービスが一体となった品質保証活動を効果的に実施しています。

ISO9001 品質方針

日本精蠟はワックスのスペシャリストとして、会社の歴史を誇りとし、基礎製品 から高機能製品を以て、幅広い分野において豊かな未来に貢献します。

- 1. 多様化、変化するお客様のニーズ、期待に応える製品を開発・提供します。
- 2. 人・設備・製品・ $t-t^*$ スの品質向上、技術力の向上に継続的に取り組み、 Only One 企業を目指します。
- 3. コンプライアンスを順守し、社会に信頼される企業であり続けます。

2021年 1月 4日 代表取締役社長 安藤 司

お客様とのコミュニケーション

当社は、ホームページにおいて最新の会社情報や製品情報を公開し、お客様がいつでも簡単に当社の情報にアクセスできる仕組みを構築しています。更に、ホームページには、お問い合わせフォームを設けており、お客様からのお問い合わせが直接担当者へe-mailで送信され、対応できるようにシステム化しています。

お客様満足度向上に向けた取り組み

当社は、性能・品質・納期等において、お客様のニーズにあった製品を提供するだけでなく、当社の販売・開発部門が、お客様に密接にかかわりながら、お客様の課題、要望について、お客様と対話をしながら解決していく、ソリューション提案型の販売活動に積極的に取り組み、お客様の満足度向上に努めています。また、お客様に対し、毎年、顧客満足度調査を実施し、お客様の要望を的確に把握するとともに、その結果を社内にフィードバックし、更なるお客様満足度の向上に繋げています。

ステークホルダーエンゲージメント

株主・投資家の皆様とともに

当社は、株主・投資家の皆様の視点に立った迅速かつ正確で透明性のある情報提供に努めています。

情報開示の取り組み

当社は、経営方針、財務データなどの企業情報を、株主や投資家の皆様の視点に立ち、迅速、正確かつ公平に開示することで株主や投資家の皆様の信頼に応えるよう努めています。

情報開示にあたっては、法定開示基準および証券取引所の定める開示規則を遵守しています。

株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

当社は、株主・投資家の皆様をはじめ幅広いステークホルダーに対し、適時、適切な情報開示や経営戦略の伝達、資本市場の声のフィードバックを行うために迅速、正確かつ公平な情報提供を行っています。

主なIR活動としては、株主総会、下記に示した開示ルールに則した決算発表や有価証券報告書等があります。またホームページでもこれらのIR情報を積極的に提供しています。

IR情報

個人投資家の皆様へ

経営情報

IR資料

IRイベント

株式情報

電子公告

IR資料

最新IR 資料

財務指標

決算短信

事業報告書

有価証券報告書

I Rカレンダ -

地域とのコミュニケーション

ボランティア活動

徳山工場では、工場周辺は勿論のこと、様々な環境活動 に積極的に参加し、地域への貢献を目指しています。

例年10月には周南農林事務所が主催する「水を守る森林づくり~まちと森と水の交流会~」に参加し、指導林業士や県、市、森林職員の指導のもと、広葉樹林の下草刈り、徐伐、抜き伐り、倒木・枯木の撤去等を行い、水源の森を整備する活動に参加しています。

毎年、鼓南小学校・鼓南中学校の児童・生徒のみなさんとともに、「3000万人瀬戸内海クリーン大作戦」に参加しています。

徳山工場周辺では、県道の草取りを定期的に実施し、地域住民の皆様に気持ち良くご利用いただける様、道路の美化に努めています。



鼓南小学校・中学校との海岸清掃

地域貢献活動

2020年から地元小中学生の卒業式を盛り上げるために、地元の有志と協力し、当社のワックスおよび地元の資源(竹)を活用した「キャンドル卒業式」を実施しています。今後も地域性や当社の強みを活かした魅力を発信し、企業価値を高めていきます。

その他、地域の文化祭や運動会にも積極的に参加し、地域との連携を図っています。



キャンドル卒業式

レスポンシブルケア活動

地元住民の方々を対象に、毎年地元企業が開催するレスポンシプルケア活動に参加しています。この活動は私たち企業が、環境・保安・防災に関して、どのような活動を展開しているか地元住民の方々に説明し意見交換をする場です。

周南地区環境保全協会に加盟する企業と合同で説明会を準備及び運営し、地元住民の方々にご理解 いただくよう努めています。

ステークホルダーエンゲージメント

従業員とともに

当社は、人材の力を発揮できるよう各種の教育・研修制度を整えているほか、従業員が働きやすい 環境を整えるための制度の充実化を図り、ワークライフパランスの実現を目指しています。

人事制度

当社は、従業員の能力、成果、意欲を正しく評価することにより、昇級、昇格、異動、配置および 教育訓練等に積極的活用を図ることによって、従業員各自の能力および資質と士気の向上に努め、 もって人事上の処遇へ適正に反映させることを目指しています。

教育・研修制度

当社は、職場内のOJT教育に加え、各種の階層別研修、職務別研修を行い、自己啓発支援に努めています。

新入社員・中堅社員

内定者研修 新入社員導入教育 新入社員7ォローアップ^{*}教育 中堅社員教育

管理者

新任管理者研修 評価者教育 管理者教育

工程教育 技術教育 専門教育 業務研修 ISO內部監查員研修





従業員の健康管理

当社は、従業員の健康維持・増進のため、全従業員を対象にした定期健康診断・35歳以上の生活習慣病予防検診およびメンタルヘルス対策として講演会の開催や年1回のストレスチェックの取り組みを積極的に行い、従業員の心と体の健康管理に努めています。

ワークライフバランス

次世代育成支援対策推進法では、ワークライフパランス(仕事と生活の調和)を実現する多様な働き方の整備に取り組むことが求められており、子育てをしている労働者の職業生活と家庭生活との両立を支援するための雇用環境の整備や、その他の従業員も含めた多様な労働条件の整備を行うことが必要となっています。

当社においても「一般事業主行動計画(2020.4.1~2025.3.31)」を策定し、従業員の仕事と子育て 両立支援について目標を掲げて、取り組んでいます。

- 目標① 平均勤続勤務年数の男女差の縮小
 - 〈対策〉
 - ・定期的な労働者の意識調査(仕事のやりがい等に関するもの)の実施と改善策の実行
 - ・フレックスタイム制、在宅勤務、テレワーク等による柔軟な働き方の実現
- 目標② 固定的な性別分担意識是正のため全社で意識啓蒙を行い、すべての社員がその能力を 十分に発揮できる環境を作る

〈対策〉

- ・ダイバーシティの考えを根付かせるために、階層ごとの問題点を抽出し適確な教育を行う
- ・各種社内制度をわかりやすく周知し、既存制度の適確な活用を行う
- 目標③ 定時退社意識の向上と定着のため、/-残業デーの取り組み等の充実を図り推進する 〈対策〉
 - ・日勤者について/-残業デ-の取り組み等の充実を図り推進する
 - ・スマートワークスタイルの取り組みを通じて、業務の効率的な遂行と定時退社の意識づけ啓発を行う
 - ・残業が一定時間数を超える場合の本人と上司に対する通知・ヒアリング等の実施



重要な環境課題(リスク)について

1. 原材料の調達

当社グループの原料油は良質なワックスの含有量が多い東南アジア産の原油にその多くを依存しております。原料の安定的な調達は、産出国の政策や国情により影響を受ける可能性があります。

2. 原油価格変動

当社グループの製品コストの大半を占める原料油価格は、原油価格の動向に左右されるため、その変動が当社のコストに大きな影響を与えます。

3. 需要および市況変動等

当社グループの主製品のワックス販売は、国内・海外市場の多方面で産業用素材として使われておりますので、各国経済および各業界の需要動向の影響を受けます。また、中国をはじめとする競合先の動向に影響を受けます。重油販売は内外の市況に大きく影響されます。

4. 金利および為替の変動

有利子負債が多いため、金利の上昇は借入コストの増加につながり、また、為替の変動は輸入原料のコストや輸出製品の販売に影響を与えます。

5. 災害や事故

当社グループは人為的操業事故や災害を未然に防止するため、定期的な設備点検等安全対策の徹底を図っておりますが、地震や台風などの自然災害等が発生した場合は操業を停止する等の緊急措置をとるため、生産および販売活動に影響を及ぼす可能性があります。

6. 退職給付債務

当社グループの従業員退職給付費用および債務は、年金資産の運用収益率や割引率などの数理計算上の前提に基づいて計算されています。年金資産の運用環境の悪化により前提と実績に乖離が生じた場合などは、将来の退職給付費用が増加し、当社グループの業績と財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

7. 資産価値の変動

当社グループが保有するたな卸資産、固定資産や有価証券等について、経済状況等の影響から資産価値が低下した場合は、評価損が発生するなど、当社グループの経営成績および財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

8. 情報の管理

社内情報システムのセキュリティーの強化のためにウイルス対策等の対応に務めておりますが、地震や台風などの 自然災害等に起因して情報システムに障害が発生する可能性があります。この場合、業務が停止する等、 生産および販売活動に支障をきたす恐れがあります。

9. 海外での事業活動について

当社グループはタイ王国において事業活動を行っております。そのため、予期しない政治状況の激変や 法制度の変更、さらに地政学的なリスクが内在しております。

経営責任者のコミットメント

重要な環境課題への対応について

①"高機能・高品質製品"と"成長市場"の追求

(ライスワックス事業)

これまでの市場調査、サンプルワークを通じて充分な市場の手応えを得ており、2022年度は、設備投 資含む事業計画を策定します。

(タイヤ向けワックス事業)

タイイ子会社業績もコロナ禍を乗り越え黒字安定し、アジア市場におけるプレゼンスは確立しつつあります が、2022年度は新規開拓等によるボリューム拡大よりも、既存顧客ニーズの取りこぼしを無くし、より 高付加価値帯のマーケティングに注力いたします。

(分子蒸留事業)

既存顧客の新機種搭載トナーのニーズへ着実に取り組むとともに、設備の稼働率アップに貢献する取 り組みも継続いたします。

②徳山工場の中長期設備投資計画策定

"脱重油"対応設備投資に加え、精製設備や蒸気ボイラーの環境対応型への切替え、原料タンクや大型船専 用桟橋等の強靭化等、今後10年後の間に必要な投資・補修案件を網羅し優先順位をつけた中期的実施 計画を策定します。同時に、2029年創業100周年に向けたCO2排出削減目標設定とその具体的な実行 計画も策定します。

③物流改革と削減プロジェクト

有利子負債圧縮策の柱となる、たな卸資産の削減につきましては、"脱重油"方針にも沿った原料貯 蔵タンクそのものの削減や、流通倉庫活用・小口配送集約化等による製品在庫削減など、長年かけて作 り上げてきた物流システムの改革と一体的に進めてまいります。

ビジネスモデル(当社の強み)

国内で唯一、ワックス一筋の専業メーカー

日本精蝋は1929年(昭和4年)、ワックス(ロウ)の国産化とその製造過程で得られる重油を海軍に供給することを目的に、南満州鉄道の子会社として設立されました。1945年(昭和20年)の終戦時に閉鎖された後、1951年(昭和26年)、新たに日本精蝋株式会社として再興。以来、石油ワックスを扱う国内で唯一の専業メーカーとして半世紀以上にわたり、日本の産業経済の成長と発展に寄与してきました。現在は、主に石油を原料とするパラフィンワックスおよびマイクロクリスタリンワックスを中心とした良質のワックスとその副製品を製造・販売し、あらゆる分野の多彩な用途にお応えしています。

確かな技術力でハイクオリティな製品を提供

日本精蝋の主力製品づくりを一手に引き受けているのが、山口県周南市に位置する徳山工場です。 徳山工場では設備の新鋭化を進め、長年培ってきた確かな技術力と厳しい品質管理のもと、多段式プレス発汗法と近代的な溶剤脱油法を組み合わせた独自のプロスによって優れた製品を製造。こうして生まれたワックスは「ニチロウ製品」と呼ばれ、顧客の厚い信頼を得ています。また、品質マネジメントシステムの国際規格ISO9001の認証を取得しており、品質のみならず、お客様の満足度向上のための経営管理システム全体も国際規格にかなう高いレベルにあることが認められています。

品質への高い評価で海外でも揺るがぬ地位を確立

日本精蝋のワックスは、アメリカ、中南米、オセアニア、東南アジア等を中心に世界約30カ国へ輸出され、さまざまな用途に広く使われています。その品質の高さには定評があり、信頼できるメーカーとしてどの地域においても抜群の知名度を誇ります。今後も高い品質と安定的な供給力を活かし、さらなる需要増が見込まれるゴム分野、複写機プリンタ(トナー)分野への供給にも積極的に注力し、継続的な収益確保を目指しています。

特殊な領域の需要に応える卓越した技術力

日本精蝋では、ごく限られた領域で高い性能が求められるワックスの特殊なニーズにも対応しています。中でも、タイヤ等の各種ゴム製品の老化防止には大きな成果を上げています。原料のゴムにワックスを練り込むことで、老化の原因となる大気中のオゾンを遮断する被膜を形成し、亀裂を防止します。その効果を発揮する成分が温度によって異なるため、気象条件などに合わせたワックス組成の微妙な調整が必要です。こうしたハイレベルなご要望にお応えする基盤となるのが、ワックスの専業メーカーとして素材づくりで蓄えた経験とそこで培ってきた技術力であり、日本精蝋の最大の強みとなっています。

多彩な用途に対応する豊富なバリエーション

日本精蝋のワックスは、品質の良さだけでなく、そのパリエーションの豊富さでも群を抜いています。とりわけ高純度に精製された特製品と呼ばれるワックスは、需要の伸びも顕著な分野で大切な役割を果たしています。たとえば熱転写方式のプリンタインクに用いられているワックスは、紙への密着度を向上させる働きがあります。また、製本や合板工場のラインに使用されるワックス系ホットメルト接着剤は、加熱で液化させ、塗工し、冷えて固まることで接着が完了するため、乾燥させたり、溶剤の揮発成分を飛ばしたりする必要がありません。人や環境にやさしいことから、今後も安定した需要が期待されています。

高い知名度を活かし、グローバル事業を拡大

日本精蝋のワックスは、豊富なバリエーションと品質において、事情の異なるさまざまな国や多様なニーズに幅広く対応し、世界各国で高い評価をいただいています。あらゆる産業のグローバル化が進む中、日本精蝋ではこれまでに得た信頼と高い品質を最大限に活かし、ますます需要の伸びが予想される世界市場での事業展開強化に向け、販売網や供給体制、さらにはサービス体制の拡充に力を注いでいます。



ワックスは環境や人にやさしく、安全で無害

ワックス(ロウ)の歴史は古く紀元前まで遡り、その語源はアングロサクソン語の"WEAX"="蜜蝋"のことを指しています。ロウソクが誕生した古代エジプト時代から近代まで、ロウソクの原料には蜜蝋が使用されていました。

現在ワックス、すなわち蝋は、一般に「常温で固体、加熱すると液体となる有機物」と定義され、非常に広い意味で用いられています。昨今では持続可能な社会の実現、脱石油の観点から植物ワックスやフィッシャートロプシュワックスカがより注目されています。

日本精蝋では創業より主に石油ワックスの取り扱いをしてまいりましたが、ワックスのスペシャリストとして石油ワックスの/ウハウを活かし、植物ワックスやフィッシャートロプシュワックス製品の開発・製造も行っています。



優れた特性を活かし、身近な生活用品に幅広く使用されています

ワックスは極めてシンプルな素材ですが、様々な特性を持ち、その用途は多岐にわたります。







〈17〉 NIPPON SEIRO CO.,LTD. 2022 CSR報告書

持続可能な社会の実現へ向けて

当社は、創業以来、ワックス一筋に歩んできた日本で唯一のワックス専業メーカーです。主力製品である天然資源から生まれたパラフィンワックスは、燃やしてもタ゚イオキシンを発生せず、土中の微生物によって分解され、環境にも人にも安心で安全、無害な素材です。生分解性を持ち撥水・防水に優れたワックスは、パラフィン加工が施された帆布生地のエコパック゚やくり返し使える蝋ラップ等、脱プラスチックの中でも再び注目されています。

また、現在当社では、長年の石油ワックス製造・研究の/ウハウを活かし、植物蝋の研究開発も盛んに行っています。米ぬかから米油抽出の際にできる蝋分を精製したライスワックスは、非可食の『バイオマス資源』を有効活用しています。

「私たちの事業は、社会や地球の営みとともにある」という基本に立ち、サステナブルな社会の実現に向けて私たち日本精蝋ができることを、そしてワックスの可能性を追求してまいります。



安全への取組み

徳山工場は、安全衛生方針「安全は凡てに優先する」を掲げ、以下の取り組みを実施しています。

安全衛生中央委員会

毎月第二水曜日(原則)に安全衛生中央委員会を開催しています。主な活動としては、労働衛生に関することを中心に、労働災害の撲滅、健康管理に関すること等に取り組み、安全・安心の職場づくりを目指しています。また、実際に発生した事故事例を基に、類似事故発生のリスクを検討し、リスクが認められる場合は防止策を行い、類似事故防止に努めています。

5S安全パトロール

毎月、第一水曜日(原則)に5S安全パトロールを実施しています。

安全の基本は整理整頓にあることから、特にその部分を中心にパールしています。また、危険と思われる箇所やリスケアセスメントを実施しなければならない作業も重要な点検項目と位置づけています。 危険な箇所、作業に関しては、指摘内容を改善させ、危険の芽を早期に摘み取る安全な職場環境作りを目指しています。 注釈) 5 S: (整理・整頓・清掃・清潔・躾)

労働災害ゼロへの取り組み(危険感受性・敢行性)

徳山工場、つくば事業所では、危険感受性・敢行性のテストを実施しました。これは自身が危険を 危険と感じる力(感受性)と危険なことでも「やってしまう」傾向(敢行性)を評価、認識し、日頃 の業務に活かす取り組みです。今後、2年後に同様のテストを実施します。それまで危険に対する意識向 上教育をタイプ別に実施し、構内の労働災害セ゚ロを目指します。

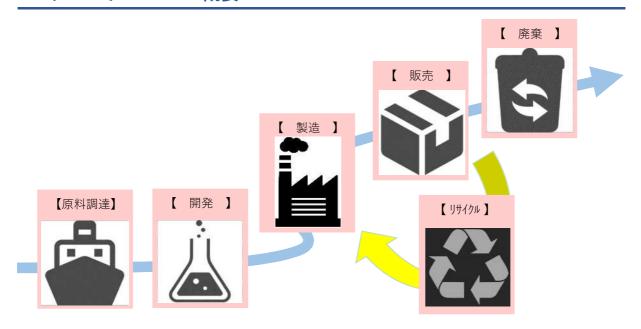
総合防災訓練

爆発・火災・漏洩等の緊急事態を想定した社内総合防災訓練、本部員訓練、消火隊訓練、応急隊訓練等を実施しています。徳山工場のロケーションは、民家や県道、さらには海に隣接していることから、あらゆるシナリオを想定し、有事の際に備えています。

2021年度は、総合防災訓練を12月に実施しました。訓練内容は、どこで発災するか情報を開示しない「プラインド型訓練」とし、有事の際と同様な状況で各隊員の動きを確認しました。

職場においては、避難訓練として、南海トラフ(震度5弱以上)の地震が発生した際の持ち出しリストやマニュアル、避難場所までの順路等、緊急事態の対応を計画的に実施しています。

バリューチェーンの概要



グリーン調達の方針、目標・実績

省エネ法(荷主、輸送業者に係る措置)のうち、トラックの改良トンキロ法(積載率と車両の燃料種類、最大 積載量別の輸送トンキロからエネルギー使用量を算定)を指標として、お客様へお届けするまで可能な限り環 境負荷を低減する配送に努めています。



環境配慮型製品・サービスの状況



中期計画(2021-2024)

2021年度を初年度とする「中期計画21-24」は創業90周年(2018年2月)に策定した「チャレンジ90」を基盤として継承し、次なる創業100周年に向けて、2021年~2024年の4年間を体質改善時期と位置づけ、当社が目指す方向性の実行計画をより具体的に定めたものです。



【財務ハイライト】









中期計画(2021-2024)

(中期計画の3つの方針)

1. "成長市場でのプレゼンス"確立と"高性能・高品質製品"の追求

"成長市場でのプレゼンス"確立と"高性能・高品質製品"の追求

お客様のニーズ・当社独自の技術がフィットする領域を開拓。国内外問わず成長市場(特にアジアの自動 車タイヤ向け)に積極参入・プレゼンス確立を目指すとともに、高機能・高品質プリンタトナー用ワックスの共同 開発・拡販を推進

マーケットイン思想での用途開発・組織体制の見直し

営業部門と開発部門を統合。マーケットイン思想でお客様のニーズを具現化する為に適した組織体制へ移 行し、分子蒸留・ライスワックス等の新たな製品開発に注力

2."経営管理"の高度化・適正化

経営執行体制強化

経営企画部を新設し、中期計画の進捗管理を徹底。ガバナンス・収益管理強化を図るべく、事業別 採算管理システムの早期導入やグループ体制の再構築を実行。外部より経営人材(取締役・執行役員) を積極登用

組織・人事制度刷新

当社優秀な人材確保のために、働き甲斐・脱年功序列も考慮した人事制度改革を検討開始。組織 の刷新を実行

バランス管理の適正化

原料油購入/重油販売のパランスを管理し、当社経営が市況変動に左右されるリスクを低減する管理手 法の導入。重油の共同購買スキームの検討。監査部新設によるチェック機能強化

在庫負担の軽減

経営の健全化に向けて在庫削減等の施策の推進

3.持続可能な社会(SDGs)・長期的な事業の発展に向けた"脱重油"への移行準備

脱重油に向けた原料・製法開発

重油にこだわらない原料の開発、重油生産量を半減可能な製法の開発を目指す

徳山工場の高度化・強靭化

各設備の停止リスクを定量化し、更新投資要否を判断するリスクペースメンテナンス導入、毎年実施していた定 期修理を隔年で行う2年連続運転プロジェクトの実施、物流・タンク管理のシステム化を検討

中期計画(2021-2024)の戦略

1. "成長市場でのプレゼンス"確立と"高機能・高品質製品"の追求

● 成長市場でのプレゼンス確立 - タイヤ老化防止用途

アジアでは幅広くプレゼンス確立を目指しつつ、国内では高機能製品へ注力します

海外(アジア) での方針

国内での方針

幅広いセグメントに対応し アジアにおけるプレゼンス確立を目指す

- 成長する豊富なタイヤ需要の中で幅広い セグメントに対応
- まずはカバレッジを拡げ、<u>アジアにおける</u> タイヤ向けワックス供給者として 欠かせざるプレゼンスの確立を目指す
- 高機能・高品質タイヤについても 引き続きお客様のニーズに合わせた開発・ 生産を行う

メーカー様のニーズにきめ細かく応える 高機能・高品質製品を追求

- 日本国内では、様々な環境に対応可能な 機能性や耐久性、色・質感等のニーズへ きめ細かく応える
- ワックスメーカーの中でもリファイナリー (精製)機能をほぼ唯一持つ当社ならでは の、<u>多様な融点帯・性状のワックス精製・</u> 絶妙なブレンド組成により、お客様の ニーズを高い水準で満たす性能を実現

● 高機能・高品質製品の追求 -トナー用途

当社のトナー原料用ワックスは、高付加価値トナーに欠かせざる位置づけにあります

高付加価値トナーにおいて求められるニーズ

当社ワックスの優位性

① 高純度

- より省エネルギーである低温定着トナーが 主流化する中、低融点であるほど有害な UFP(超微粒子物質)が揮発し易くなる為、 より不純物が少ないトナー原料用ワックス の需要が高まっている

② シャープメルト

- 滲まず鮮明な高品質トナーにおいては、 プリンターで熱を加えた時のみ融解し、 瞬時に定着・安定するような融点幅が狭い ワックス原料の需要が高まっている

分子蒸留製法による 高純度・シャープメルトなワックス基材

- 独自の分子蒸留製法により、UFPを含む 低分子をカットし高分子成分のみを抽出 する為、高純度かつ90℃の狭い融点幅 のトナー基材を実現

● 高機能・高品質製品の追求 - ライスワックス

糠由来のライスワックスは、既存品に対する優位性があり、代替機会が存在します 2025年度以降の拡販に向け、本中計期間において自社生産の確立を目指しています

中期計画(2021-2024)の戦略

2. "経営管理"の高度化・適正化

バランス管理の適正化

購入契約済み原料油数量/販売契約済み重油数量を把握し、価格決定した原料油・重油双方の数 量について一定枠内でのパランスに収まるよう日次で管理していきます

商品リスク管理の見直し

	従前	現在
管理方法・周期	デリバティブ取引はヘッジ目的に限定	左記を前提に買いポジション/売りポジション双 方の残高を 日次で把握
ヘッジ対象	価格変動リスクのある原料油及び販売重油に関 する実需及び見込み	価格変動リスクのある原料油及び販売重油に関する実需のみ
役割/責任の明確化	経理部が為替リスクを、需給部が原油価格変動 リスクを主管	需給部が商品と為替の市況変動リスクを主管し 監査部にて需給部の管理状況を監査
バランス枠管理 / 評価損益管理	実需を超えてヘッジをする場合は取締役会決議	売り買いポジションのアンバランスを一定の枠内 に抑制 枠の超過及び評価損が▲50百万円を超えた場合、経営執行会議に報告。同会議より指示

価格の確定した原料油/重油双方の数量を一定のパランス枠内に収める目的に限定して商品デ リバティブを活用します

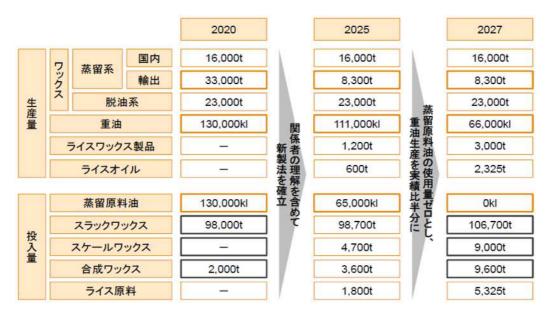
バランス管理のイメージ図 原料油購入価格の固定化が進行した場合 重油販売価格の固定化が進行した場合 (外枠は契約済み数量規模を表す) 新たに 新たに 価格固定化 (固定売り) (固定買い) 価格固定化 既に 既に 既に 既に 価格固定化 価格固定化 価格固定化 価格固定化 【原料油購入契約】 【原料油購入契約】 【重油販売契約】 【重油販売契約】

中期計画(2021-2024)の戦略

3.持続可能な社会・長期的な事業の発展に向けた"脱重油"への移行準備

● 脱重油 一定量目標

2027年には蒸留原料油の使用をゼロ、重油生産量を66,000KLに抑え、付加価値の小さい輸出品を1/4に絞り込むべく、中計期間を通じて準備を進めます



● 脱重油 -ロードマップ-

2025年以降、蒸留原料投入量及び重油生産量を半減させるべく、本中計期間においては顧客同意を得ながら製法を確立します



環境マネジメントシステム

徳山工場をはじめとして当社製品を製造するすべての事業所では、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001:2015の認証を取得しています。毎年、安全と環境保全を最重要課題とし、地域社会との共生に努め、製造過程での環境負荷低減や汚染防止に最大限の努力を払っています。取締役会においても重要な環境課題を環境管理責任者が適宜、情報提供を行っております。

基本理念

日本精蝋f' ループ (徳山工場、つくば事業所および \bar{f} カノワックス株式会社) は「天然素材の \bar{f} のプックス」を主体とした製品を供給する事業体であることを念頭におき、地球をより健全な状態で子孫に残すことこそが私達の責務と捉え、環境マネシ メントシステムの継続的改善に努めます。

基本理念

日本精蝋株式会社徳山工場、つくば事業所およびテクノワックス株式会社は「天然素材の石油系ワックス等」を主体とした製品を供給する事業体であることを念頭におき、地球をより健全な状態で子孫に残すことが私達の責務と捉え、環境保全活動の継続的な改善に努めます。

環 境 方 針

- 1. 環境保全に関する法規制、条例、協定、ならびに当社が規定する自主規制を遵守します。
- 2. 事業活動を通じ、ライフサイクルに亘る環境負荷低減に向けた取り組みを推進し、省資源、省エネルギー、廃棄物削減に努めます。
- 3. 環境マネジメントシステムの適切な運用により、企業としての「意図した成果」を追求するとともに継続的な改善活動を実施します。
- 4. 環境保全活動への積極的な参画による地域社会との共生、ならびに環境配慮型製品の開発に努めます。
- 5. 組織で働く、又は組織のために働くすべての人に環境方針、および地球環境の大切さを周知するとともに、この方針を公表し、社会と密接な連携を図ります。

2021年1月4日

日本精蠟株式会社 執行役員 徳山工場長 環境管理責任者 片岡 憲仁

重大な環境課題の特定方法(リスクマネジメント)

環境リスクの特定、評価および対応方法

環境管理の推進

日本精蝋が ループ では、「基本理念」および「環境方針」を基に各部門で想定されうる環境リスクを抽出し、環境改善活動を実施しています。環境管理委員会は、工場長を環境管理責任者とし、各部門の部長からなる環境管理推進責任者、課長からなる環境管理実施責任者をメンパーとし、原則四半期毎に開催しています。主な活動としては、年間計画の立案、内部監査の実施、環境改善活動の評価を行っています。

また、環境管理委員会のもとに省エネルギー推進委員会を設置し、タイムリーな原単位の把握及び原単位削減に寄与する省エネ活動に取り組んでいます。

【環境管理組織図】



内部監査

日本精蝋グループでは、毎年4~5月にかけて資格を取得した社内の内部監査員が内部監査を実施しています。これにより内部監査員の育成と、該当部門の運用・管理状況を確認しています。

内部監査の結果は、事務局を通じて環境管理責任者へ報告され、マネジメントレピューに反映されます。

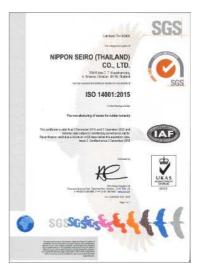
外部監査

徳山工場では、認証機関DNV によるISO14001:2015の認証 監査が毎年実施されており、 2021年も特に問題なく認証され ました。

NIPPON SEIRO (THAILAND) CO.,LTD.において も認証機関SGSによる ISO14001:2015の監査が実施 され、特に問題なく認証されま した。



日本精蝋株式会社 徳山工場 つくば事業所、テクノワックス(株)



NIPPON SEIRO (THAILAND) CO.,LTD.

大気汚染防止

当工場には、大気汚染防止法の対象となるばい煙発生施設があります。この施設から排出される大気汚染物質には規制がありますが、法に関わる排出基準は何れもクリアしています。

燃油使用量は、製造量によって増減するものの、極端な量の違いは見られません。合わせて、この 燃油を燃焼することに伴って排出される窒素酸化物(NOx)は、例年大きな変化はありません。今後 は、窒素分の少ない代替の燃料や最高燃焼温度下げる等を検討し、環境負荷低減に向けた取り組みを 進めていきます。

一方、硫黄酸化物 (SOx) については、2019年以降、硫黄分の少ない燃料を使用したことにより、 硫黄分の排出を抑制することに繋がりました。



硫黄酸化物・窒素酸化物発生量



燃油使用量

水質汚濁防止

徳山工場では、工場の排水を処理した後、瀬戸内海に排出しています。その排水はCOD等厳しい法的規制値をクリアしています。

当工場は周南市と環境保全協定を締結し、COD以外にもSS、/ルマルヘキサン、鉛等、多くの項目で規制値を定め、毎月、測定結果を報告しています。また、この規制値よりさらに厳しい基準値を社内で設定し、その基準値を遵守するように取り組んでいます。

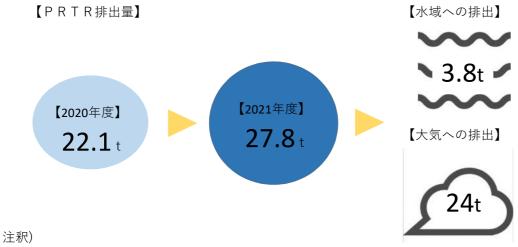
2021年2月にCOD協定値外れがありました。再発防止策を徹底し、周南市へ報告しております。



COD排出量

PRTR対象物質の排出

徳山工場では、PRTR法に基づき、届出対象物質は毎年6月、山口県へ排出量を報告しています。 PRTR対象物質を使用する種類については、増加はありませんが、生産する品種に伴って増加する PRTR対象物質があります。今年度は、トルエンの使用量が大幅に増加したため、昨年よりも増加となりました。



PRTR(Pollutant Release and Transfer Register:

化学物質排出移動届出制度)とは、有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物として事業所外へ運び出されたかという数量を集計し、公表する仕組みです。

産業廃棄物(汚泥)の削減とリサイクルの推進

徳山工場では、産業廃棄物の削減に努めております。

7ックスを生産するに当たっては、必ず産業廃棄物が 発生しますが、リサイクルまたは有価物として再生利用可 能となるように努力しています。

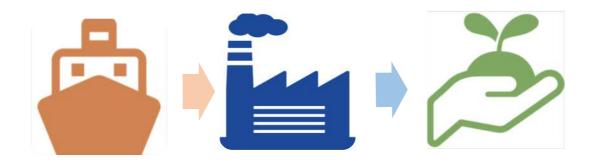
今後は、製造工程を根本的に見直し、産業廃棄物を発生させない手法によって排出量削減、環境にやさしい製造生産体制を検討していきます。



産業廃棄物(汚泥)の処分状況

マテリアル収支

事業活動において発生するエネルギーについては、INPUTとOUTPUTを把握するとともに、 地球の環境負荷低減に向けたショウエネルギー化を検討、取り組んでいます。



石油原料

287,613kℓ

391,069 t

海水

13,093,645 t

副資材

5094.6 t

電気

7,882,464kWh

燃料

30,210kℓ





OUTPUT

ワックス

76.224t

重油

173,019kℓ

COD

40 t

PRTR対象物質

27.8 t

3,208.2 t

産業廃棄物

排出水

13,494,780 t



日本精蠟株式会社

〒104-0031 東京都中央区京橋2丁目5番18号(京橋創生館10階)

〔お問い合わせ先〕

日本精蠟株式会社 徳山工場 技術部 環境保安課 〒745-0803 山口県周南市大字大島850番地

TEL: 0834-84-0323 FAX: 0834-84-0860